

太秦の古墳を歩く

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



上空から見た太秦と遺跡(上が北)

右京区太秦は、国指定の史跡である蛇塚古墳・天塚古墳などの前方後円墳や、広隆寺や木嶋神社(蛸ノ社)などの有名な寺院・神社などがある、歴史を身近に感じることのできる地域です。

発掘や立会などの遺跡調査から、縄文時代・古墳時代以外にも平安時代以降の各時代の遺跡が良好に遺存することが明らかになっており、特に古墳時代の遺跡は数も多く、平安京遷都以前の京都を知る良好な資料となっています。

5世紀後半に朝鮮半島から移住

した秦一族は、新しい土木技術を用いて葛野川(現在の桂川)に大堰を築き、この京都盆地西北部・葛野一帯に開発を進めました。これにより生産力は飛躍的に増大し、秦氏は大きな勢力を持つことができました。太秦という地名は、秦氏が朝廷に絹などを^{うづたか}堆く盛り上がるほど献上したことにより「^{うづたか}兔豆麻佐」の姓を与えられたことに由来するとされています。

先の2つに加え、清水山古墳・仲野親王墓古墳(垂箕山古墳)などの前方後円墳を始めとする大小

200を超える古墳や西野町遺跡・上ノ段町遺跡・常盤仲ノ町遺跡・広隆寺旧境内などは秦氏一族の集落跡です。秦氏は、奈良・長岡京時代にもこの地域で勢力を貯えていたことが文献史料にも記されています。即位した桓武天皇は、この勢力を後ろ盾にして都を奈良から長岡京に移し、さらに平安京へと進めました。この一連の遷都事業は、秦氏の強大な援助があってはじめて実現したと言えます。それでは、秦氏の足跡をたどってみましょう。(小檜山 一良)



仲野親王墓古墳（垂箕山古墳） 古墳時代後期。前方後円墳（全長75m）。宮内庁管理。仲野親王高阜陵。築造が6世紀中葉に考えられる大型墳。前方部の幅が極端に広がる。



蛇塚古墳 古墳時代後期。前方後円墳（全長75m）。横穴式石室（玄室長6.8m・幅3.8m、羨道長11m・幅2.6m）墳丘はすでに消失し、石室が露出している。その規模から明日香の石舞台古墳と対比される。石室部分のみ国の史跡。



千代ノ道古墳 古墳時代後期。円墳（径16m）。ほぼ完存しており、内部主体の横穴式石室の石材が南側の裾部に露出している。現在はマンションに囲まれて見つけにくい。



和泉式部町遺跡 古墳時代。天神川西岸の平地。上の写真、右奥が蚕ノ社の森。弥生時代中期から古墳時代後期までの竪穴住居跡を多数検出している。遺物は出土した韓式系土器の破片。



上ノ段町遺跡 古墳時代後期から飛鳥時代。竪穴住居7戸と掘建柱建物1棟の他、土壇・柱穴など多数検出。



常盤仲之町遺跡 古墳時代後期。6世紀後半から7世紀前半にかけての集落跡。広隆寺や常盤東ノ町古墳群と合わせ、付近一帯を根拠地とした秦氏関連の重要な遺跡。多くの遺構を検出。



西野町遺跡 古墳時代。桂川東岸の平坦地。奈良・平安時代に続く。嵯峨野小学校内で、古墳時代後期の竪穴住居跡5戸が発見された。大型と小型の規模のものがある。



常盤東ノ町古墳群 古墳時代後期。双ヶ岡の西方、緩やかな丘陵上に点在。円墳4基（径14~20m）。横穴式石室。1基は移築保存。写真左は横穴式石室から出土の副葬品。